

2024年度 第55回「博報賞」受賞者一覧

(※敬称略・都道府県順)

「博報賞」

「博報賞」は、児童教育現場の活性化と支援を目的として、財団創立とともにつくられました。「ことばの力を育むことで、子どもたちの成長に寄与したい」そんな想いを核として、日々教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者の「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰しています。

また、その成果の共有、地道な活動の継続と拡大の支援も行っています。

【博報賞・文部科学大臣賞】

山口県 下関市立本村小学校

【博報賞】

宮城県 ことばの貯金箱「夢」プロジェクト

東京都 特定非営利活動法人
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

神奈川県 石川 正明 (横浜市立吉原小学校 教諭)

福井県 勝山市立成器西小学校

愛知県 認定NPO法人 プラス・エデュケート

三重県 三重県立特別支援学校
北勢きらら学園

大阪府 NPO法人
おおさかこども多文化センター

【功労賞】

秋田県 大仙市立大曲南中学校

長野県 社会福祉法人 まるこ福祉会
チームまるこ

広島県 北広島町教育委員会

福岡県 北九州市立合馬小学校

熊本県 熊本市立芳野小学校

大分県 臼杵市立臼杵南小学校

【奨励賞】

神奈川県 横浜市立南吉田小学校

神奈川県 手塚 裕美子 (横浜市立本町小学校 教諭)

新潟県 上越市立三和中学校

愛知県 岡崎市小中学校現職研修委員会
長期欠席対策部会

※活動内容につきましては、当財団ホームページに掲載いたします。「博報賞 最新の受賞者」ページにてご確認ください。

公益財団法人 博報堂教育財団

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル14階 TEL(代表):03-6206-6266(平日9:30~17:30)
財団ホームページ:https://www.hakuhodofoundation.or.jp/ E-mail:hakuhoushou@hakuhodo.co.jp

主催 公益財団法人 博報堂教育財団

後援 文部科学省

【博報賞・文部科学大臣賞】受賞数 1件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p>^{ほんむら} 下関市立本村小学校 (日本文化・ふるさと共創教育)</p> <p>【活動タイトル】 平家踊りの伝統を受け継ぐ ～コミュニティ・スクールの 仕組みを活用して～</p>	山口県 下関市	<p>コミュニティ・スクールのよさを活かし、地域の方と高学年児童が「熟議」の時間を大切にしています。児童が地域の方と積極的に話し合う姿は大変に素晴らしいと感じます。このことができるようになった要因として、児童の主体性を重視した点があげられます。技能の継承だけでは、技能指導者から言われたことだけを素直に真似して踊る活動になってしまいます。本村小学校では、自分たちが踊りの継承をして、この地域社会を活性化しようと、自ら活動を考えて、主体性のある行動をとった点で特に優れていると評価できます。</p>

【博報賞】受賞数 7件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p>ことばの貯金箱「夢」プロジェクト (国語教育)</p> <p>【活動タイトル】 「ことばの貯金箱にことばをいっぱい貯めて、ことばの億万長者になろう！」</p>	宮城県 仙台市	<p>東日本大震災で笑顔を失った子どもたちとの出会いをきっかけとして、子どもたちにことばの大切さを伝える活動を長年にわたり続けてきた実績が評価できます。「チャリーン」「いいね」というかけ声や「ことばの億万長者になろう」というキャッチフレーズも、子どもたちの意欲を引き出す重要な要素となっています。</p> <p>ことばによって励まされ気持ちが温かくなる体験をしてその大切さを知ることは、これからさまざまなことを経験する子どもたちにとって重要なことです。本プロジェクトは、ことばのよい面を十分に味わい体験できる活動である点が評価されました。</p>
<p>特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)</p> <p>【活動タイトル】 子どもの社会参画を ～世界は変えられる、 子どもがそう信じられる社会に～</p>	東京都 世田谷区	<p>子どもが社会を変化させる主体となれるという活動理念の基、25年以上息の長い活動を続けています。子どもが社会課題の解決に向けて行動するために、アクションアイデアの出し方や、SMART目標の設定などの提供により、問題発見・解決能力が育成される支援をしています。また、アクションを起こした子どもによる活動報告書を、毎年「ソーシャルアクションレポート」として冊子にまとめ、WEB公開することは、子どもが社会活動に対して、さらに広く深く関心を向けることとなり、自律的な学習者を育成することにつながり波及効果、応用が期待できる点が評価されました。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p>^{まさあき} 石川 正明 (横浜市立吉原小学校 教諭) (国語教育)</p> <p>【活動タイトル】 自己を表現し、他者を認める集団づくり ～句会を中心に据えた川柳の活動～</p>	神奈川県 横浜市	<p>柔軟な文芸様式である川柳を使いながら、子どもたちの表現力・理解力を育て、ことばを介したつながりをつくり出す教育実践です。自分のことばを吟味し、ことばによって思いを伝え合うツールとして、学習者の一人ひとりが川柳を受け入れていることが資料から伝わってきました。自分の身の回りで生じた出来事や見聞きした事象の意味を、子どもたちがことばによって発見する営みが学校の内外で展開され、ことばの力とことばによるものの見方・感じ方が育まれていく、その実践には見応えがあります。ことばが自分を見つめる「鏡」にも、人とつながる「絆」にも、世界を見つめる「窓」にもなることを教える実践です。</p>
<p>^{せいきにし} 勝山市立成器西小学校 (日本文化・ふるさと共創教育)</p> <p>【活動タイトル】 学校と地域でつなぐ左義長まつり</p>	福井県 勝山市	<p>外部指導者や地域との連携により、左義長まつりの願いを児童にしっかりと伝え、そのうえでバトンを受け取った児童が、「西の子左義長まつり」で短冊や川柳、習字、太鼓という分担により自らの思いを表現しています。ペア学年による太鼓の練習では、上学年が下学年を教えたり、下学年が上学年を真似たりする姿が見られ、互いのよさを認め合い、子ども同士の引継ぎになっています。少子化・高齢化の時代にあって地域で児童が活躍する機会を提供し、持続可能な社会の担い手を生み出す実践といえます。</p>
<p>認定NPO法人 プラス・エデュケート (日本語教育)</p> <p>【活動タイトル】 ゼロレベルから3か月で話せるようにする 子どもへの日本語指導と教材開発</p>	愛知県 豊明市	<p>外国にルーツをもつ子どもたちが増え続けている現状において、子どもたちが学校の学びにスムーズに移行できるように、独自のカリキュラムを作成し、長年にわたり初期日本語教育を担ってきた実績が高く評価できます。子どもの参加率がほぼ100%であることは、子どもたちが安心して学べる場になっていることを示しています。</p> <p>活動実践に対する他市からの視察も増えており、カリキュラムや教材、指導法のみならず、市との連携等、さまざまな特徴を有する本活動は、他の地域がそれぞれの特徴に応じた多くの示唆を得られる活動となっています。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
三重県立特別支援学校 ほくせい 北勢きらら学園 (特別支援教育)	三重県 四日市市	<p>令和3年に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行され、学校設置者は、在籍する医療的ケア児に対し、適切な支援を行う責務を有することが明記されました。「適切な支援」について、平成9年の開校時は全国的に未整備でしたが、今日まで27年間継続して実践研究に取り組み、学校看護師と教員との協働による安全で安心な医療的ケア児とその家族の笑顔につながる教育へと発展してきました。先駆的取組の研究成果は、報告会や書籍等で積極的に発信を行うなど、全国の医療的ケアを実施する学校への波及効果は極めて大きい点が評価されました。</p>

NPO法人 おおさか子ども 多文化センター (国際文化・多文化共生教育)	大阪府 大阪市	<p>外国につながる子どもたちの母語や母文化の重要性は指摘されるものの、それを活かした活動はまだ十分に行われていません。そのような中、外国につながる子どもや保護者の母語・母文化を尊重し、それを活かして活躍できる場を公に設定し、交流の機会を生み出している点が高く評価されました。</p> <p>幅広い活動において「多文化にふれる えほんのひろば」が他の活動とどのように関わるのか等も含め、全体像が発信されると、他団体が自身の活動と結節点を見いだし、波及効果が拡大していくことが期待されます。</p>
----------------------------------------------------	------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【功労賞】受賞数 6件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
おおまがり 大仙市立大曲南中学校 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	秋田県 大仙市	<p>ESDストーリーマップは、目標や理念を具現化した学習活動が物語性をもって可視化しています。これにより、各教科等で習得した知識を、グローバルな諸課題と関係づけて深く理解する学習活動となっており、また、生徒一人ひとりが当事者意識をもてるように、地域の素材を教材化したり、外部の学習協力者(専門家)を活用したりしています。こうした質の高い教育活動を全教職員でカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる点が評価されました。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
社会福祉法人 まるこ福祉会 チームまるこ (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	長野県 上田市	<p>現在の日本では一般に、子どもたちは、家庭と学校と塾の往復で日常の大半の時間を過ごしており、万一そこで何らかのトラブルが生じると、逃げ場を見つけるのが困難です。「チームまるこ」は、家庭でも学校でもない第三の場所に、子どもが安心して居られる場所と人間関係を創造してきました。しかもそれは年齢や障がいの有無やさまざまな壁を越え、みんなが支え合う地域のネットワークとなっています。上田は、1920年代から30年代に民衆が地域文化の創造を求めて上田自由大学の運動を起こした土地であり、その伝統の息吹を感じる素晴らしい取組です。</p>

北広島町教育委員会 (日本文化・ふるさと共創教育)	広島県 山県郡 北広島町	<p>北広島町の児童生徒は、毎年美術や図画工作の時間に、自分を正面から見つめ、自画像を描いています。年々変化する自分を見つめることで、自らの成長へ肯定的な見方を高め、その足跡での人々への感謝の気持ちを深めています。自画像とは、このように単なる絵画の技法的な結果だけでなく、自分自身をふりかえり、多様な思いを表現した結果なのだと気づかされました。継続して描く児童生徒の心底には、ふるさとが生んだ「<small>あいまつ</small> 鬘光」という画家への誇りが生まれることでしょう。偉人を通して歴史的背景まで学んだからこそわかる郷土愛があると拝察しました。</p>
-------------------------------------	--------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

北九州市立合馬<small>おうま</small>小学校 (日本文化・ふるさと共創教育)	福岡県 北九州市	<p>地域の自然や農産物、文化に着目し、学習材として教育課程に取り入れてきたことで、児童が地域のよさに気づき、周りの人のよさや自分のよさにも気づくことにつながっています。農業体験では地域の農家の方をゲストティーチャーに招き、合馬神楽で合馬神楽保存会から指導を受け、竹細工・門松づくりでも地域のボランティアの支援を受け、まさに地域と一体になって郷土愛をもつ児童を育てています。地域行事に参加する児童・保護者が増え、行事の担い手となる卒業生も出てきて、長年の取組の成果が表れています。</p>
--------------------------------------------------------	-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
よしの 熊本市立芳野小学校 (日本文化・ふるさと共創教育)	熊本県 熊本市	ふるさとを愛する心情を育むために、地域にゆかりのある夏目漱石とその漱石が旅の途中で詠んだ俳句を学習活動としている点に独自性を感じます。中学と小中一貫校になる前の平成14年から俳句活動を継続していることで、小中9年間の「芳野学」の柱となっています。小学生の誰もが親しみやすく、親子で参加できるウォークラリーや外部講師の助言を受ける句会を開催するなど、学びのニーズに応える活動が多いです。児童は生き生きと活動を進めています。活動を持続可能にするために組織分掌を工夫し、新任教員の学びを重視した点も評価できます。

うすき 臼杵市立臼杵南小学校 (日本文化・ふるさと共創教育)	大分県 臼杵市	高齢化や過疎化という時代において、地域と連携しながら「新要流棒術」を受け継ぐことは簡単ではありません。臼杵市は子どもを地域の財産ととらえて支援をしています。小学校の統廃合により、一部地区で伝承された技能を統合した全体の伝承文化ととらえ直しています。また「新要流棒術愛護少年団」として児童全員をメンバーとする社会教育団体として登録して指導を仰いでいます。さらに、途中指導者がいなくなると児童同士で教え合い、伝承を続けています。困難を乗り越えて、学校が地域と共に児童の自己肯定感の育成につなげている点が評価されました。
----------------------------------------------	------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【奨励賞】受賞数 4件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
横浜市立南吉田小学校 (国際文化・多文化共生教育)	神奈川県 横浜市	子どもたちの活動を主眼に置きつつも、保護者の視点も取り入れ、学校の立体的なアセスメントがなされている点、外国から編入してくる子どもたちが安心して過ごせるような学校づくりが継続されている点は、心服するとともに、高く評価できます。今後、日本全国の学校で外国籍および外国にルーツをもつ子どもたちの受け入れが増えるのは想像に難くなく、南吉田小学校の実践が、十分に最適かつ基盤のモデルとなることが期待されます。引き続き、数々の実践が展開され、日本全国の子どもたちの笑顔につながることを願うばかりです。

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
手塚 裕美子 (横浜市立本町小学校 教諭) (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	神奈川県 横浜市	手塚教諭は、大道芸を教材化し、芸を磨くこと、コミュニケーション力をつけること、ショーの構成を考えることなどの資質・能力を明確化した総合的な学習の時間の単元を開発しました。また必要に応じて、子ども自身が何のために大道芸をしているのかと問い直す機会を設け、活動の目的を再確認することは自律的な学習者を育成しています。さらに地域や人との関わりが希薄化している現代において人と人をつなぐための大道芸としている点が評価されました。

上越市立三和中学校 (日本文化・ふるさと共創教育)	新潟県 上越市	「地域青少年まちづくりワークショップ」の引継ぎ会は、それまでの学年の思いを受け止めながらも、自分たちはどのようにしたいかを柔軟に考え、新たな活動を生み出す場となっています。青少年育成会議に所属する地域コーディネーターが、話し合いのファシリテーターとなり、生徒が思い描く計画の実現に向けて各種団体との連絡調整を行い、効果的な役割を果たしています。総合的な学習の時間は『未来』と名づけられ、「まちづくりワークショップ」の活動計画を実現する時間となっており、今後さらなる発展が期待されます。
-------------------------------------	------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

岡崎市小中学校現職研修委員会 長期欠席対策部会 (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	愛知県 岡崎市	増え続ける不登校児童生徒の問題は、大きな社会問題となっています。しかし、教職員の不足や長時間労働問題の深刻化も壁となり、本腰を入れられない自治体も少なくないです。そんな中、岡崎市教育委員会が、独自予算を確保し、経験豊富な教員をF組の担任に配置するなど、自治体ぐるみで本格的な取組を開始したことには大きな意義があります。刮目すべきは、全校の児童生徒たちがF組の活動を見る中で、「どの子にもその子なりの事情がある」という前向きな人間理解を育むに至っている点です。この活動の継続とさらなる深まりを大いに期待しております。
-----------------------------------------------------------	------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------